



みせん

瀬戸内海国立公園
宮島地区パーク
ボランティアの会

第105号

発行日
令和8年9月1日

◇ 目 次 ◇

P-2: 入浜池定点観察①

P-7: 清掃登山(大聖院道)

P-8: 自主観察会(1)植物 公募観察会下見

P-10: 公募観察会(植物)

P-13: 自主観察会(2)植物

樹木名板植物確認・維持管理作業

P-15: 環境省研修会 歴史(神社・仏閣)

P-17: 自主観察会(3) 小なきり海岸植物調査下見

P-19: ミヤジマトンボ生息湿地清掃作業

P-20: 厳島神社前海浜清掃作業

P-22: 会員研修会(11/28)下見報告

編集後記

「 ミミズバイ (ハイノキ科) 」



撮影日 2024 年 7 月 18 日

宮島にはハイノキ科の植物が6種類自生し、それぞれ白い花を咲かせますが開花期が異なります。クロキ、クロバイ、ハイノキの3種は春に、ミミズバイ、カンザブロウノキ、シロバイの3種は夏に咲かせます。最近猛暑が続く、夏の活動が困難になっていますので、花を見る機会が少なくなっています。秋には、ミミズの頭に似ていると言われる実を見ることができます。

(写真・文 : 山本昌生)

入浜池定点観察①

日時：4月11日（土） 13:00～15:30

天気：晴れ

行事推進員：大西 小川 豊原 穂井田

松田 元広

参加者：伊藤 川本 河野(敏) 近末 豊原(清)

豊原(祐) 中道 穂井田 舩田 松田

元広 山田 山本(昌) 以上 13 名

環境省：澤野自然保護官

概要：総会後に入浜池定点観察に車 3 台で移動し、調査・ゴミ収集等を行いました。

大雨後で池の水が多く、流入している水も多かったです。環境整備部会員からも入浜に訪れたことがないので興味があると参加がありました。また、澤野自然保護官も参加され、景色もよく非常にいい場所だと気に入っていただけました。（文：山本 昌生）

【水質調査】舩田 祐子

調査班：伊藤 豊原(清) 舩田

調査する前に 10 年前の入浜のたうたうと水で満ちた池の写真を見ました。

水量が減り、植生も変化した現在の様子に驚きました。

10 年前の姿に戻るのは、難しいかもしれませんが、データーを残す事、清掃活動などこの場に心を寄せてゆく大切さを感じました。（文：伊藤英美）

調査結果は下表です。

入浜定点観察報告（水質調査班）

2026. 4. 11 広島湾予測水位			満潮	15:43	208cm	干潮	11:33	179cm	
天候	晴れ	前日の天候	雨/曇り	降水量	47.5mm	測定参加者	伊藤、豊原(清)、舩田		
気温	13:45 20.0℃			最低気温12.8℃ 最高気温21.5℃ (気象庁・広島のデータより)					
調査時間	14:48	14:45	13:48	13:54	14:04	14:11	14:20	14:34	14:29
測定地点	A	B	中央付近	C'	D	E	F	山水	海水
水流	なし	なし	なし	湧き水流入	なし	なし	—	○	—
油膜	あり	なし	なし	なし	なし	なし	なし	濁りなし	濁りなし
杭、水位 (cm)	-10.5	-9.0	-10.0	測定なし	杭なし	-14.0	-12.0	—	—
水温 (℃)	19.2	22.9	24.0	16.3	20.7	19.9	28.0	13.8	15.9
水深 (cm)	5	15	2	0	3	14	12	—	5
P H (-)	5.0	5.0	5.0	5.0	6.0	6.0	5.0	6.0	—
塩分濃度 (%)	0.16	0.17	0.07	0	0	0.18	0.23	0	2.51
C O D (mg/L)	6	4	4	8	4	6	6	2	—
池の状況	※前回1/24の調査は、B地点 1 m先でのみの測定だったが、今回は全地点で測定できた。 (降水量: 2月 79.9mm, 3月 118mm, 4/10まで 114.5mm 気象庁・広島のデータより) ※測定地点C' は、山側からの真砂土流出により杭が埋まっていた。杭付近の湧き水を測定。 ※F地点、池の水は海へゆっくり流れ出ている。 ※F地点にはたくさんの小さな泡が浮かんでいた。(原因不明) ※池全体にメダカ多し、ヘビが水面を移動。A地点でカメの死骸、ハゼの仲間、アメンボ ※シュレーゲルアオガエルの白く泡立ったメレンゲ状の卵塊と孵化したばかりの白いオタマジャクシ								



2026.4.11 C'地点の杭（撮影：舩田）



2026.4.11 C'地点の湧き水（撮影：舩田）



2016.4.2 C'地点（撮影：小川）写真左下から右上に向かって流れている



2014.6.14（撮影：山本）



2026. 4. 11（撮影：山本）



2016. 4. 2（撮影：小川）

- ・撮影位置は A 地点の杭よりも B 地点より
- ・赤い矢印：2026.4.11 の枯れた株は 2016.4.2 の右端の葉。2016 当時はハマゴウ、ヒトモトススキがあって 2026 の位置から撮影できない。

【野鳥観察】元広 修爾

調査班：穂井田 元広

本日は 2 名で、入浜池周辺の林の中、やや開けた広場、海辺の 3 地点で調査を行いました。

この日の調査は午後を開始したこともあって、出会えた野鳥は少なかったのですが、ヒヨドリと考えられる群れが渡っていく様子を観察することができました。

なお、ミサゴとサンショウクイは、松田会員が追加してくださったものです。

皆様、お疲れ様でした。

入浜野鳥定点調査 4 月 11 日

晴れ 13:30～15:00

種名	数	種名	数
ミサゴ	1	ハシブトガラス	3
トビ	5	ヒヨドリ	30
コゲラ	1	ウグイス	3
アオゲラ	1	シロハラ	5
サンショウウクイ	1	アオジ	1
		計10種	

季節区分	冬鳥	夏鳥	留鳥
------	----	----	----

季節区分は、『ひろしま野鳥図鑑』（2002 年 日本野鳥の会広島県支部（編）中国新聞社刊）」による。

【植物観察】 山本 昌生

ヒトモトススキは前回の 2 月の調査と変わらず、順調に生育していました。やはりシカよけネットの影響が大きく、過去の写真と比較すると大きく成長しているのがわかります。写真のネット B は現地の実生を保護した株（ネットの設置は 2023 年 4 月 1 日）、ネット C は別の場所で育てた苗を植えた株（2023 年 11 月 4 日定植）です。気温が上がり、ハンゲショウの芽がたくさん出てきて、テリハノイバラやシロダモの若葉を見ることができました。

花：ヤブツバキ、サルトリイバラ、イワタイゲキ

実：シロダモ、サルトリイバラ

新芽：

草本（ハンゲショウ、ハスノハカズラ）

木本（シロダモ、テリハノイバラ）



ネット B のヒトモトススキ：
2024 年 4 月 6 日



ネット B のヒトモトススキ：
2025 年 4 月 12 日



ネット B のヒトモトススキ：
2026 年 4 月 11 日

【昆虫調査】 松田 賢

(4月のトンボ類など)



ネット C のヒトモトススキ：
2023 年 11 月 4 日



ネット C のヒトモトススキ：
2024 年 11 月 9 日



ネット C のヒトモトススキ：
2026 年 4 月 11 日

◇日時：4 月 11 日 13:30～14:50

天候：晴れ，

調査時気温：18～21℃，風：弱～中

◇結果概要：

春先の入浜池でのラインセンサス調査により確認できたトンボ類は、2 種 4 頭のみでした。ホソミオツネトンボとウスバキトンボです。前者はその名のとおり成虫で越冬する種で、当地では例年みられます。青く色づいたオスが、池周囲のアカマツやハマゴウの藪で活動する姿がよく目立ちました。後者のウスバキトンボは熱帯性で世界中の暖かい地域に生息し、日本へは毎年、春以降に大陸から飛来したものが世代を繰り返し、秋までには数を大きく増やします。寒さに弱く、日本のほとんどの地域で冬を越せないとされています。今回確認されたのは、池の上空を飛び回っていたオス 1 頭で、四翅の傷みのない新鮮な個体でした。由来はわかりませんが、当地でのこれまでの調査では、成虫の確認時期として最も早い記録となります。

水辺ではトノサマガエルの成体、シュレーゲルアオガエルの卵塊と幼生、鳴き声（コロコロ、カカカという感じ）が確認されました。前者は体長 8cm を超える大型のメスでした。後者は乳白色のメレンゲ状の卵塊が数個確認され、その中に多数のクリーム色の卵が見えました。周囲の水中にはちょうど孵化したばかりの白っぽい幼生もみられました。またガのなかまの大型種、オオミズアオの新成虫（メス）が確認されました。うす緑色の美麗種で、蛹で越冬し春に羽化しますが、夏から秋にかけて次世代の成虫が現れ、この時期に見かけることのほうが多いかもしれません。幼虫は多食性でいろいろな広葉樹の葉を食べます。今回、チョウ類はキタキチョウ、テングチョウ、ルリタテハ程度しか見ませんでした。短時間の調査でしたが、生物の営みが垣間見られました。

(写真,文：松田 賢)



ホソミオツネントンボのオス



同. 卵塊から出たばかりの幼生は白く透き通り、体の黒斑もあまり目立たない。



ウスバキトンボ (オス)



オオミズアオのメス



トノサマガエルのメス



オオミズアオ (メス) の頭部。



シュレーゲルアオガエルの幼生と卵塊 (下)

清掃登山（大聖院道）

日時：4月25日（土）9:00～15:40

天気：快晴

場所：宮島栈橋～大聖院入口～大聖院登山道
～仁王門～弥山山頂の往復

行事推進員：上杉(裕) 上杉(幸)

参加者：岩崎 上杉(幸) 折出 熊埜御堂
河野(進) 河野(敏) 末原 豊原(尚)
中島 穂井田 村上(慎) 山本
以上12名

概要

樹木調査を兼ねた清掃登山(大聖院登山道)を実施しました。

参加者は 会員12名でした。

4名ずつ3班に分かれて樹木調査を行い、
確認対象樹木58本中43本確認しました。

14時30分に終了予定でしたが、1時間余り遅くなり、15時40分に大聖院入口で解散しました。

活動

当日は、黄砂のせいか空が少し霞んでいましたが、雲一つない快晴でした。

2011年に発行した「弥山原始林の直物マップ」の改訂を目的とした樹木調査を兼ねて、大聖院登山道(大聖院入口～弥山山頂)の清掃登山を行いました。

登山道を、①大聖院入口～里見茶屋跡
②里見茶屋跡～太夫戻 ③太夫戻～弥山山頂の3班に分け、各班4名で、マップに記載の樹木を探し、白いプレートに番号と樹木名を書いて樹木とともに写真撮影、および樹径、樹高、場所、特徴を記録する作業を行いました。樹木径は地面から約1m30cmの所をメジャーで測った値を、樹高は目測で4名全員が納得した値を記入しました。

樹木を探す作業では、マップを見ながら、所々立っている丁石を頼りに大体の場所を特定し、私たちの班では植物に詳しい山本さんに対象樹木を確認して頂きました。対象樹木は全体で58本、その中で確認できたのは43本でした。また、樹木の追加も行いました。

場所を特定する際、丁石の番号が道に沿って順番に立っておらず混乱した所もありました。後で、宮島には慶長時代や明治時代など違う時代の丁石が存在していることや、同じ所に3丁も違った丁石が並んで立っている場所なども教えて頂きました。

樹木の確認作業については、まず樹皮を樹皮ハンドブックで照合し、それから上の方にある葉を照葉樹ハンドブックなどで照合するよう説明を受けましたが、似たような木が多く、植物に精通した方でないと判別は難しいと感じました。

(文：上杉(幸)、写真：河野(進))



樹木調査 (D47-1 : カゴノキ)



樹木調査 (D48 : アカガシ)



集合写真（弥山山頂）

会員自主観察会(1) 公募観察会下見

日時：5月11日(月) 9:00～13:10

天候：晴れ

場所：大元公園～多々良潟～大元公園

行事推進員：小川・中丸・舩田

参加者：伊藤 岩崎 小川 折出 黒川 河野(進)

河野(敏) 末原 中島 中丸 穂井田

舩田 森 山本 以上14名

昨年雨で中止になったヤマイバラを第一目的の公募観察会。今年はリベンジをと再度企画しました。幸い、今年は長期予報でも天気は晴れ、この季節ならではの植物・花、宮島ならではの植物と珍しい植物など参加者の皆さんに楽しんでいただけたそうです。

大元公園休憩所を9時30分にスタートし観察会の始まり、解説は山本観察部会長です。

宮島で見られる桜の木は4種類。シダレザクラはシカが届く範囲は切りそろえられたよ

うに食べられている。これを「ディアライン」というそうです。この日は見られませんが、昨年の下見の時はシカが背伸びしてシダレザクラの枝を食していました。

サカキカズラは花盛りで香りがあたりに漂っていました。

清掃センターの前にはナンゴクウラシマソウが群生しています。不思議な花の形をしっかりと観察しました。

宮島でよくみられるミミズバイはミミズの頭のような実がびっしりと着いていました。実がついていると「ミミズバイ」の名前の由来がよくわかります。でも今時、ミミズの頭の形と言ってわかる人がどのくらいいるでしょうか？

2018年の豪雨災害で崩れた道の傍らに植生保護の金網が張ってありました。シカから保護された斜面にはハマゴウやクマノミズキの幼木、タラノキ、ウリハダカエデなどが所狭しと育っていました。

テイカカズラの花も咲き始めで本番にはたくさん咲いてよい香りがすると思われました。昨年秋の実りの木の実がたくさん残っているのに驚きました。サルトリイバラ、タマミズキ、ソヨゴなどの赤い実が思いのほかたくさん残っていて、これから花が咲く時期な

のに今年の実りに影響はないかと心配になりました。

昨年の下見では全く咲いていなかった目的のヤマイバラは、咲いていましたが、一部の蕾が折れたようになっていて、これは「バラゾウムシ」の被害だそうです。そのため2024年の満開時よりも花が少ないそうです。同じ時期に咲くヤマボウシの花も咲き始めて16日の本番には白い花が咲き誇っていると想像できました。

当日配布予定の資料には60種類の植物リストが載せてありますが、多々良潟のゴールに行くまでに41種類の植物の観察ができました。リストにない植物も6種類の説明がありました。中でも、私個人的には「オオバウマノスズクサ」の花は初めてで沢山の花がついているのを確認し、写真に収めました。

キビタキやアオゲラ、エナガなど野鳥のさえずりも耳を楽しませてくれました。

昼食は大崎の砂浜に降りて清掃活動の後、腰を下ろしてお弁当を食べました。

大元公園に戻ったのは13時10分ごろ。出発が遅かったこともあり、少し時間オーバーしましたので、当日は説明するものを絞り、暑くなりそうなので水分補給の立ち止まり休憩も必要、列が長くなりそうなので後ろの方で説明、誘導する係も必要など、振り返り確認しました。

ともあれ、参加者は昨年希望されていた方がほとんどと聞き、天気もよさそうだし、ヤマイバラを見ていただけそうなので楽しみです。

(文：中丸 写真：河野(進) 穂井田 山本)



バラゾウムシの食害により蕾が折れたヤマイバラ



ヤマボウシの花



オオバウマノスズクサの花



観察風景



大崎の砂浜への道を清掃



集合写真

公募観察会（植物）

日時：5月16日(土) 9:00～13:10

天候：晴れ

場所：大元公園～多々良潟～大元公園

行事推進員：小川 中丸 舛田

参加者：麻生 伊藤 岩崎 小川 折出 川本

河野(進) 河野(敏) 末原 豊原(清)

豊原(祐) 中丸 濱村 穂井田 舛田

村上(慎) 森 山本 以上 18 名

環境省：澤野自然保護官 大高下 AR

公募参加者 18 名

昨年は雨のため中止となった春の観察会、今年はずっと見られますようにと私たちの思いが通じたようなピカピカの晴天でのスタートとなりました。

朝 9 時に大元公園無料休憩所に集合、環境省の澤野自然保護官、末原会長、山本観察部会長の挨拶の後、総勢 38 名での出発です。

大元公園からトンネル先は初めて歩く人が多く、ワクワクのスタートです。トンネルを

抜けると枝のラインが一定の長さのシダレザクラを発見、「シカが食べられる高さで枝のラインが一定となるディアラインというそうです」とガイド役の山本部会長から説明がありました。

参加者の皆さんから「シカさんも食べるのに大変よね」と同情したり、桜もちの葉に使われるオオシマザクラの葉を触ったりと、カエデのプロペラを飛ばしたりと、とても楽しんでいる様子でした。さらにウバメガシの根もとでまんまるのかわいいどんぐりを探したり、ナンゴクウラシマソウの花の地味さと株の大きさにより性が変わることに驚いたり新しい発見がたくさんです。

右手に海が見えて、心地良い風が吹き抜ける気持ちのいい道をゆっくりと進みます。すると白い可愛い花がたくさん！みなさんのテンションが上がりました。お目当ての宮島の野生バラ・ヤマイバラです。すぐそばにはヤマボウシも満開です！

森から野鳥の声、海からの波の音に耳を傾けのんびり進みます。道路わきに三角形の船

船用の標識がありました。ここでは、末原会長から海底ケーブルなど、宮島の電気、水道などのインフラについて説明がありました。

歩きながらミミズバイ、カゴノキ、タイミンタチバナ、タマミズキ、カンザブロウノキ、トサムラサキなどなど、たくさんの植物を観察し、途中でカニ、ヘビ、野鳥、シカの親子などの生き物にも出会い、みなさん大満足です。

帰り道もたくさんの植物を観察しつつ、とても美しいビーチ大崎海岸でお昼ごはん。美しく穏やかな瀬戸内海を見ながらおしゃべりをしたり、海の水に触れたりと最高のランチタイムでした。

植物、生き物、景色に満たされた帰り道は会話も弾み、あっという間に 13 時に大元公園に到着です。18 名の参加者の方々、みなさん植物愛があふれていて、私たちパークボランティア会員も楽しく過ごすことができました。「また同じコースを秋も歩きたい」という嬉しいリクエストもたくさんいただきました。今日一日一緒に歩いたみなさま お疲れ様でした。ありがとうございました。

(文：伊藤 写真：河野(進))



ウリハダカエデの説明



満開のヤマボウシ



ミーティング



ヤマイバラ



ヤマイバラとヤマボウシの説明



オオバウマノスズクサの観察



集合写真

- ・動物が好きで、たくさんの動物を見ながら植物について知ろうと思った（2名）

参加者アンケート

15 名の方にアンケートの記入をいただきました。

①参加したきっかけ

- ・宮島の自然に興味があり参加（4名）
- ・植物の観察（5名）
- ・宮島の観光地でない場所も行ってみたく
多々良潟などレアなエリアも歩きたい
（3名）
- ・散策を楽しみたい。体を動かしたい（2
名）

②行事の感想

- ・多種多様な植物に接することができました。テキストは大変分かりやすく良かったです。
- ・ガイドの方の説明、写真等、気配りに感謝です、幸せを感じました。テキストはとて詳しく見れて帰ってからも見れるので良いです
- ・講師の先生をはじめ皆様に詳しく教えていただきました。
- ・木や植物を知ることができ良かった。説明も分かりやすく良かった。

- ・知らない植物が多くてとても参考になりました。
とても丁寧に教えていただきありがとうございます。
ございます。
- ・目で見て触ってというのは分かりやすかった。
植物名を聞いただけでは覚えられないので簡単な説明や画像付きのテキストがほしい。
口頭の説明は分かりやすくて良かったです。
- ・季節に合った内容で写真も見せてくださり良かったと思います。丁寧に分かりやすい説明でした。
- ・良かった。テキストも良かった。
- ・いろいろなたとえで分かりやすい覚えやすく良かったです。テキストも分かりやすく読みやすい。
- ・詳しく教えていただき、たとえも分かりやすくて覚えるきっかけを作っていただけた。
ポイントが分かりやすくて良かった。
- ・ゆっくりと自然観察ができるのが良い。
ひとつひとつの植物について写真資料を準備されていて丁寧だと思った。
- ・講師の先生をはじめ皆様に詳しく教えていただきました。
- ・本土側とは違う植物が見れたり、自然の美しさに気づき、とっても楽しい時間でした。
分かりやすく丁度良いテキスト、説明でした。
- ・講師のテキストは、とても分かりやすくて、ペースも良かったです！
- ・講師テキストは、分かりやすく教えてくれて実物を見せてくれたのが良かった。
- ・原生林だとは聞いたことがあったが、今回詳しく木を見て回ったのは意義深い。
観光地化だけでなく宮島の貴重なそしてきれいな自然を守ることが大事と思った。
歴史的に貴重な建物、天然の綺麗な自然だから観に来たい又は来て欲しいと思うような活動を地元の市町、県として取り組んでいくべき、そしてもっと多くの市民県民が宮島の事を知り理解を深める必要があると思いました。

③観察会の時間帯

- ・よい(12名)
- ・よい 午前中の涼しい時間帯で良かった
- ・できれば昼まで

(まとめ 舩田)

自主観察会（２）植物 樹木名板植物確認・維持 管理作業

日時：5月30日(土)9:15～12:00

天気：晴れ

場所：東班（うぐいす歩道）、
西班（あせび歩道～もみじ歩道）

行事推進委員：折出 兎谷

参加者：麻生 伊藤 岩崎 大西 小川 折出
川本 熊埜御堂 河野(進) 末原
豊原(清) 豊原(尚) 豊原(祐) 中道
濱村 穂井田 舩田 村上(光) 元広
森 山本 以上 21名

自主観察会を兼ねた樹木名板維持管理作業を実施しました。当日は晴天に恵まれ、気持ちのいい天候でした。

午前9時に棧橋前広場に集合、参加者は会員21名でした。

東班（うぐいす歩道、リーダー：山本会員）と西班（あせび歩道・もみじ歩道、リーダー：舩田会員）の2班に分かれて作業し、山村茶屋がある藤の棚公園で合流しました。

作業は遊歩道の景観に配慮して丁寧に取り付けられた樹木名板(取付名板数：約300枚)の点検、清掃、補修等です。樹木名板が破損や脱落がないか、汚れていないか、取付用の針金は適切か、追加や撤去は必要かなどを、配置図と一覧表を基に確認しながら作業していきました。手の届く場所にある名板は効率よく作業できましたが、手の届かない場所にある名板は脚立やロープを使用して作業を行いました。作業は12時前に無事終了、藤の

棚公園で合流し、ミーティング後に解散しました。

当日はウォンツの健康ウォーキング大会が宮島で開催されていたこともあり、多くの方が遊歩道を利用していました。

(文：折出、 写真：河野(進))



名板清掃 (東班)



名板清掃 (東班)



名板確認 (西班)



針金のゆるみ調整 (東班)



名板清掃 (西班) (ウリハダカエデ)



集合写真（山村茶屋前）

環境省研修会 歴史（神社・仏閣）

日時 6月27日 9:15～12:00

場所：ひろでん宮島まちづくり交流センター

行事推進委員：千日 松尾

参加者：麻生 伊藤 岩崎 小川 折出 川本

熊埜御堂 黒川 河野(進) 河野(敏) 末原

近末 豊原(祐) 中島 中丸 中道 畑野

濱村 穂井田 本多 舛田 松田 三戸

村上(慎) 村上(光) 山田 山本

以上 27 人

環境省：山脇自然保護官 大高下 AR

講師：県立広島大学地域基盤研究機構

宮島学センター特命講師 大知徳子様

講演内容

「厳島の社寺の修造～中近世における大願寺の活動～」

前半は座学、後半は千畳閣（豊国神社）に移動してのフィールドワークを通して、自然（山と海）と社殿が一体となる宮島の特性を考えることができました。1996年に世界文化遺産に登録された厳島神社に対して、登録の評価基準、大願寺が「厳島社本願」として、大工らの職人集団を抱え、勧進によって費用を全国から集めて宮島の社寺・堂塔を修理造営した経緯を学びました。1587年豊臣秀吉によって造営された千畳閣では「厳島絵馬鑑」に記載されている絵馬についての解説をしていただき、柱に残る小さな穴が日清戦争以来の出兵時の祈願のために絵馬を柱に打ち付けた時の釘穴であるとの解説が印象的でした。

昼食を挟んで午後は、自主参加として大願寺（厳島弁財天本堂、亀居山放光院大願寺）坊守（住職の奥様）に厳島神社（大明神）と大願寺とが一体のものとしてあった事の説明

を受けました。明治期の廃仏毀釈の中で、島内の多くの仏像が集められた事情、1896年に寄贈された錦帯橋模型、勝海舟・木戸孝允会見の間の紹介も興味が深めるものとなりました。大願寺見学を終えて、大雨のあとに現れる弥山山腹の「幻の滝」を見ました。数年ぶりに見る人もいてラッキーな体験でした。

(文：黒川、写真：河野(進))



説明中の大知徳子特命講師



山脇自然保護官挨拶



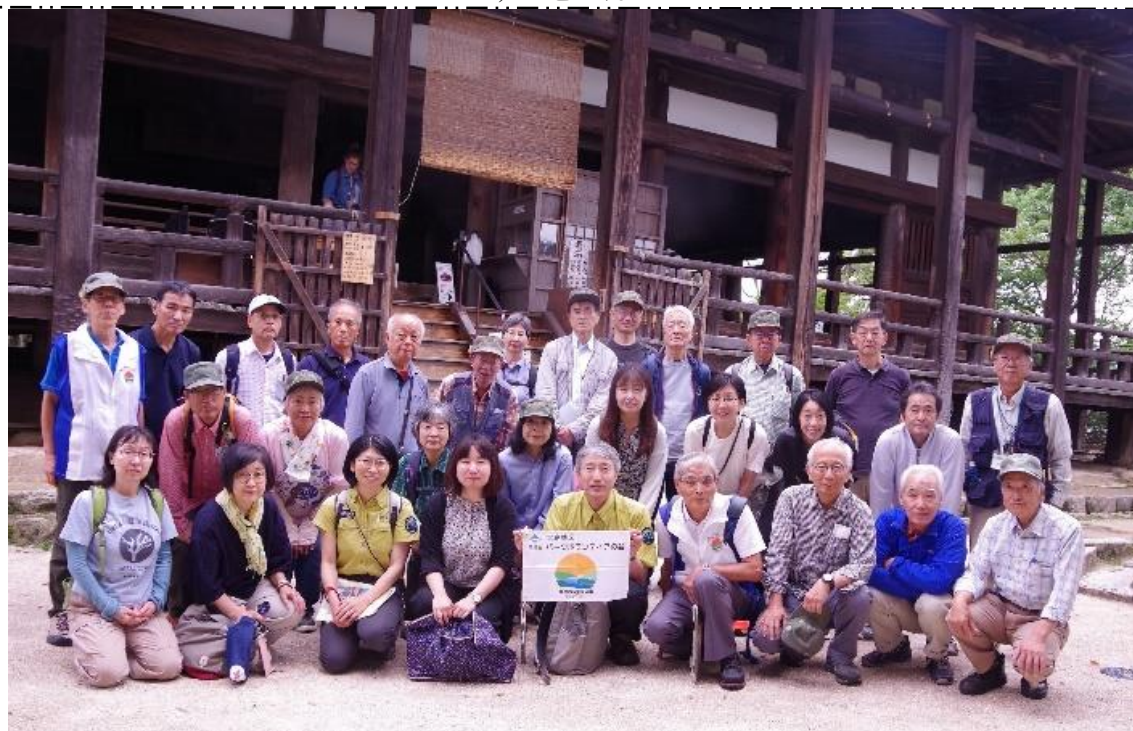
千畳閣見学



大高下 AR 挨拶



幻の滝



集合写真（千畳閣前）

自主観察会（3）

小なきり海岸植物調査下見

実施日の7月4日は大雨のため、中止となりましたが事前に下見を行いましたので、その様子を報告します。

日時：6月29日（月）9:00～11:30 晴れ
参加者：小川、中丸、山本

小なきり海岸は、栈橋から徒歩10分ほどの場所で、毎年4月の総会後に清掃作業をしていますので、特に環境整備部会の方たちは馴染み深いと思います。道路から海岸に下っていく途中に湿地があり、ここにハンゲショウの群落があります。この群落の様子については、平成16年9月1日発行の「みせん」第17号で中道会員が紹介しています。ハン

ゲショウは広島県の準絶滅危惧種に指定されていて、珍しい植物のひとつです。シカが食べないことと、宮島なので埋め立てなどの開発がされなかったために残っていると思います。20～30m四方の範囲にあり、これほどの大群落は県内では珍しいと思います。ハンゲショウはこの時期に開花し、葉の一部が白くなります。本番前にこの様子とまわりの植物を調査・観察しました。また野鳥は中丸会員が確認しました。調査結果は、舛田会員の2024年版マップをもとに小川会員が今回の結果を加えたので参考にしてください。開花は梅雨の時期なので、雨の不安もありますが、来年以降さらに調査を実施できればと思います。

（文・写真：山本、マップ（小なきり浜の植物2026年度版）植物：小川・舛田、野鳥：中丸）



ハンゲシヨウの群落（奥）と
手前にヒトモトススキ



ハンゲシヨウ

小なきり浜の植物

2026年度版



ハマゴウ (シソ科)

海關·海關

別名ハマハイ(浜遣)
近海や陸地に生ずる

海岸の砂地に生える落葉小低木
花期は7～9月。枝葉はよい香
りがする。緑香や灰汁は染料に、
果実は蔓荊子（マンケイシ）と
呼ばれる生薬に。

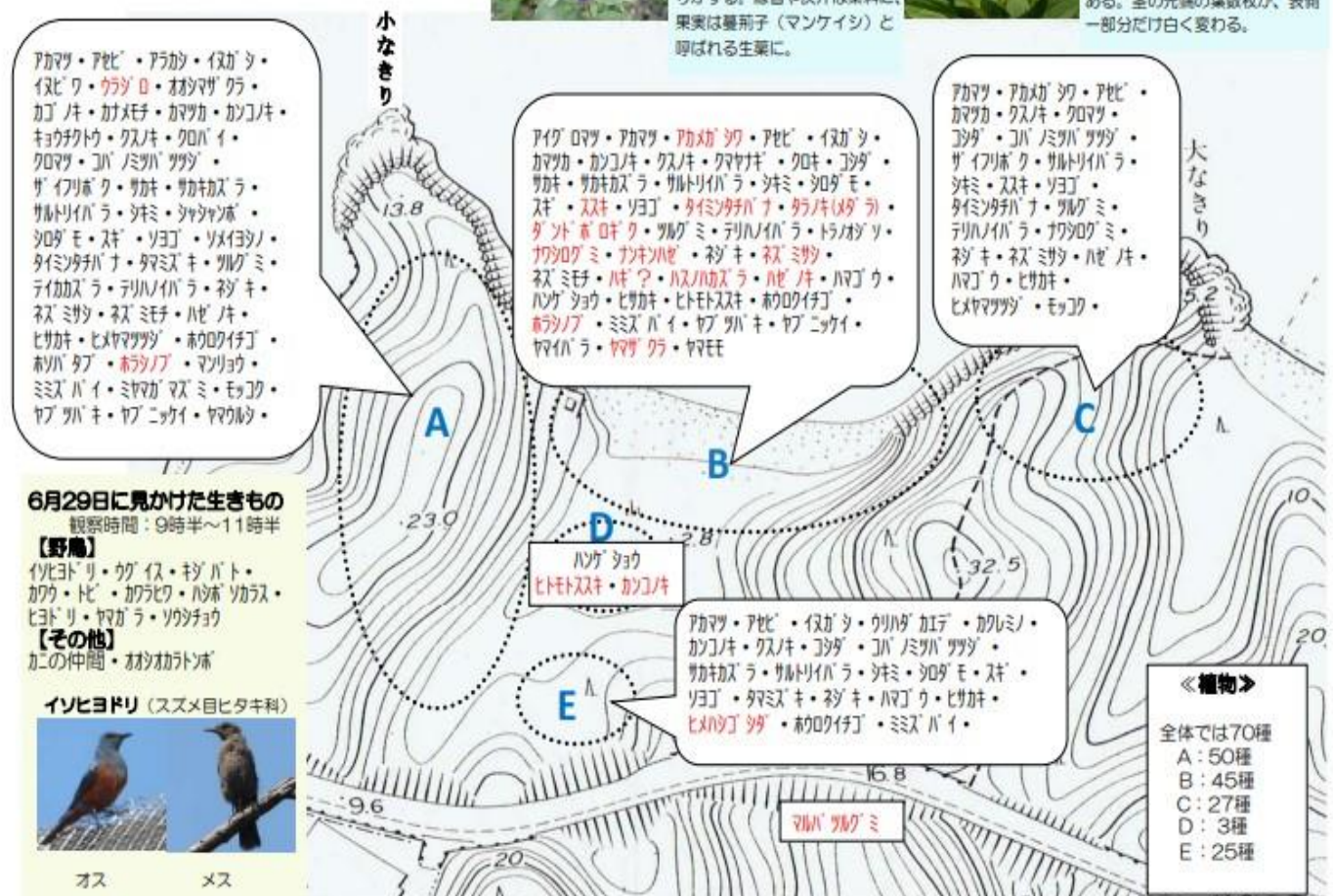


ハンゲショウ(ドクダミ科)

半夏生·半化粧

別名カタシログサ（片白草）

水辺や湿地に生える多年草
花期は6月～8月。全体に臭気がある。茎の先端の葉数枚が、表側一部分だけ白く変わる。



2026.6.29植物追加 (Cは調査せず2024.4.6の末末)

マップ° (小なきり浜の植物 2026 年度版)

ミヤジマトンボ 生息湿地清掃作業

日時：7月25日（土）9:00～12:00

場所：宮島島内（ミヤジマトンボ生息湿地）

天候：晴天

行事推進員：折出、森

参加者：青木 伊藤 岩崎 折出 恩田 黒川

河野(進) 河野(敏) 末原 空

豊原(尚) 豊原(祐) 中島 中丸

舛田 松尾 松田 村上(慎) 山田 山本

計 20 名

当初6月の実施を予定していましたが、天候不良により、7月の開催となりました。

当日は、定員いっぱいの計20名が、猛暑の中、B地点及びB'地点、2箇所の清掃作業を実施しました。

午前9時に塩屋漁港から二艘の船で出発すると、心地よい風を受けながら、穏やかな海から普段見ることができない宮島や対岸の風景に触れ、日常を忘れ、特別な時間を過ごしていることを実感しました。

20分程で生息地（B地点）付近の海岸に到着し、はじめに末原会長からの挨拶の後、松田会員からミヤジマトンボの特徴、生態や行動などについて、詳しくまとめられた資料により説明がありました。

その後、生息湿地の周辺の清掃を行い、合わせて観察も行いました。

続いて、砂浜の清掃を行いながら、次の生息地（B'地点）に向かい、到着後、清掃活動を行いました。

当初予定していなかった個体数の多い、別の生息地（A地点）へ行きましたが、干潮が近づく時間帯であり、船の接岸が出来ずに断念し、11時20分ごろ塩屋漁港に戻ってきました。

猛暑の中でしたが、怪我や事故等もなく、皆さん元気に活動し、塩屋漁港で昼食を取り、12時前に解散しました。

今回の活動では、ミヤジマトンボの個体数は多くなかったものの、一定数の生息を確認することができたことの安堵と、山から流れてくる水と、満潮時に海水が混じりあう「汽水域」、日本では宮島のみである極めて希少で厳しい生息環境を目の当たりし、今後ここ

うした活動を通じて環境を保全していく必要があると感じました。

（ 文：空 、 写真：河野(進) ）



塩屋漁港から乗船



ミヤジマトンボの説明（松田会員）



ミヤジマトンボ



清掃作業



集合写真

厳島神社前海浜清掃作業

日時：7月28日（火）13:00～14:30

天候：晴れ

行事推進員：村上（慎）森

参加者：岩崎 小川 恩田 河野（進）河野（敏）
末原 中島 中丸 穂井田 本多 松田 元広
森 山田 以上14名

コロナ禍を経て、令和5年度に4年ぶりに再会された後、続けられているのがこの海浜清掃です。

当日は管絃祭の2日前で、厳島神社では諸準備が進められていました。御座船を間近で見することもできました。

厳島神社前の海浜清掃は、管絃祭の準備の一環として実施されるものです。そのため、厳島神社の職員の皆さんとともに清掃を行いました。

今年は雨が少ないことから、アオサもゴミもあまり見られませんでした。令和5年9月号の「みせん」で厳島神社前海浜作業の記事を読むと、回収したアオサを一輪車で運んでいる様子を写真で見ることができますが、今年はそれほど量のアオサはありませんでした。

大変暑い日でしたが、厳島神社からいただいたお茶で水分を適宜補給しながら、1時間半の作業を無事に終わりました。全員で集めたゴミの量は、ゴミ袋3個分でした。ゴミの内訳は、牡蠣養殖用のパイプ、空き缶などでした。

最後に、全員で本殿前にてお祓いを受けました。私（元広）が代表して玉串奉奠をいたしました。貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

最後に、集合写真を撮って、解散しました。暑い中、大変お疲れさまでした。

（ 文：元広 、写真：河野（進） ）



厳島神社職員（権禰宜様）挨拶



海浜清掃作業



能舞台横の日陰で休憩



海浜清掃作業



玉串奉奠(元広会員が代表して)



集合写真

行事の予告

11/28 会員研修会下見報告

広島大学総合博物館

7月8日(水)に岩崎、河野(進)、村上(光)、大高下 AR にて下見を実施しました。

広島大学総合博物館は興味津々！

学芸職員からの解説に沿って見学をするとよく解ります。

宇宙地球から里山 里海へのいざない、ゾウの化石からオオサンショウウオまで宮島に関する展示もあります。館内だけでなく広い大学構内の散策道発見の小径も歩きます。



11月28日(土)に広島大学総合博物館に行こう!!

11月初旬にメールにて案内いたします。

(写真・文 広報部会 岩崎義一)

※写真は7/8下見時 撮影

広島大学総合博物館 ホームページ

[広島大学総合博物館](https://www.digital-museum.hiroshima-u.ac.jp/~humuseum/)

<https://www.digital-museum.hiroshima-u.ac.jp/~humuseum/>

◇編集後記◇

酷暑、地震、洪水の今夏。穏やかな秋を迎えたい。

次号は12月1日発行予定。(黒川)

瀬戸内海国立公園

宮島地区パークボランティアの会

事務局：環境省 中国四国環境局

広島事務所

(〒730-0012)

広島市中区上八丁堀 6 番 30 号

広島合同庁舎 3 号館 1 階

TEL082-223-7450、FAX082-211-0455